

北陸石仏の会々報

第 18 号
平成10年9月30日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 久世 嘉太郎

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

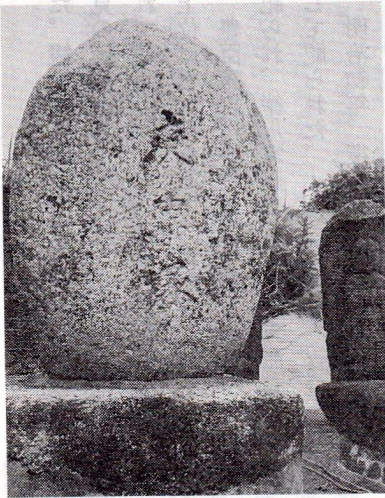
〒939-1315
電話 〇七六三―三二一―二七七二
振替 〇〇七四〇―二二―二九七四

魚津市東尾崎

「片貝大明神」石塔

平井 一雄

片貝川下流西尾崎と東尾崎を結ぶ天神橋右岸に五輪塔・地藏石仏を含む石仏群がある。阿弥陀堂魚津停車場線を車で下流に向かつて走っていると五輪塔と自然石しか見えないので降りて見たことがなかった。先日、会員の西田栄一さん(大門)から「片貝大明神」と書かれた文字碑があるという御教示をいただいた。



地図と写真まで提供されて行ってきたが一度目は見当違いの所を探して見つからず、二度目で

写真にかすかに写っていた送電線を目印にやっと探しあてることができた。片貝大明神の文字は川に面していて道路を走ってはいは絶対目に入らないのであった。

『北陸石仏の会研究紀要二号』の「片貝川黒谷七福神石塔」は水神を意識して書いていたのでこの文字碑は得難い情報であった。頭部の梵字は水天を表す。

『とやま民俗』四九号に會員滝本靖士さんが「魚津市黒谷の水天真言塔」を載せておられる。タマハコガキツクは水天の真言であり、二文字目のハは水天を表す。

片貝川は日本有数の急流河川と言われている。水の恵みと陰厄を神仏の加護に頼らざるを得なかった祖先達の苦勞が思はれる。紀年は六が読みとれるが年号ははっきりしない。明治と読みとれるようにも見える。五輪塔の左に庚申塚と刻んだ文字碑があっ



た。観音靈場巡拝供養塔やバン字板碑などもあり石仏研究者の一見の価値がある所と思う。明神とは神の尊称であり権現と併用されているが中世末、吉田神道が盛んになってきて、神道を仏教の上位におこうとして、大明神を権現より上位とした。

豊臣秀吉は吉田神道を重んじたので、死後、豊国大明神として祀られ、徳川家康は天台宗の天海を尊信し、死後、東照大権現として祀られた。

明治初年、復古神道が用いられ、権現号が廃止されて、すべて何々神社とあらためられた。このことからこの文字碑は明治以降のものと考えられる。

(大沢野町監査)

第十八回永平寺地区研修報告

北村市朗

尾田さんより十八回の例会を福井で担当してほしいとの電話で急いで計画をたてた。

丁度手元に知人の永平寺町役場に勤務している加藤茂森氏より戴いた「志比線刻磨崖仏」の調査報告書があったので、これを見学することにした。実際にはこれだけでは時間が余るので、福井県文化財保護指導委員の山本昭雄先生に相談して、永平寺谷口区の春日神社にある石造品を見ることにした。高さ一七三センチの板碑三基と五輪塔と石祠中の石仏だ。

板碑はいずれも笏谷石製で磨耗が甚だしくて像容は判別できな



いが調査によれば建仁元年(一一二二)年と古いものとのことである。

三輪塔は建仁三輪塔で珍しい型をしていた。室町中期との報告がある。石祠中の石仏は新築の建仁寺の遺物を見たが、石仏と、地藏菩薩であった。歩道道の入口に新築した建仁寺の石造品があったが元禄(一六八八)年の築の跡が見られた。この建仁寺の石造品はある時期にこの春日神社に集合されたとのことである。次いで永平寺の昔の建仁寺を再築した資料館を見学し、永平寺町実地の見学を見た。

資料館の管理棟を借用して平成十一年度の例会を開き、委員・幹事・決算を承認した。

昼食後「志比線刻磨崖仏」の見学となった。

山本先生も来てくれていて案内と説明を戴いた。この磨崖線刻についてには本会の顧問の山田良志先生が昭和三十九年に「史跡と美術三四三二」で取り上げておられることも知った。

線刻仏は九体あり、永正七(一五一〇)年から永正十四(一五一一)年の間に創立されていた。地藏菩薩七体と聖観音菩薩二体である。線刻もかなり太くて深くはっきりしていたが、つる草に埋もれていて手入れが悪くてこれが残念だった。永正年間(一五〇〇)年代

は、以前に見学した一乗谷の三千体に及ぶ石仏が一番多く造られたのが、永正から天正迄の七〇年間程で、福井県内の戦乱時代が思い出される。

永平寺の各仏堂を見学し、宝物殿にあった、嘉曆二(一一三二七)年八月に铸造された梵鐘を見学した。銘には中国後漢明帝の永平年間の暦号があり、これが永平寺の寺号となったとあった。五世義雲禅師の時である。

永平寺も今は、昔の様に修行僧の案内がなくさみしくなっていました。寺に参拝前に寺内にある石仏を見学した。明治四十三年九月二十四日に創設された、観世音菩薩三三所巡拜道にある入口近くの如意輪観世音他数体の石仏を見た。近くにあった石祠の中の石籠をおそるおそる開扉したら全身に蛇を巻いた、「宇賀神像」の石仏が出て来た。県内では珍しい発見であった。その傍に「兩宝童子」があった。これも福井県内では珍しいものであった。今回の研修旅行の思わぬ収穫だった。加藤茂森氏が調べた所では、永平寺を護る為に各所の谷に「宇賀神」が置かれているとの古老の話が伝わっているとのことだった。旅の最後は志比にある「宇賀神像」を山本先生に案内して戴いた。標識もない急坂を登ったお堂の中に尊置されていた。この宇賀神像は頭に首に蛇を巻いた人頭がのっていた。永平寺内の宇賀神とはかなり違っていた。宇賀神は又水神様ともいわれて民衆に愛された像とあり、米作りと水の関係を示しているのかもしれない。今回の研修旅行は調査不十分で細部について事前の報告が出来ず、申し訳なく思っ居りまして深くお詫びし、御報告と致します。

(武生市若竹町八一二一 在住)

〈石仏紹介〉 8

立山道標地藏

柳沢栄司

今年七月十一日に、富山県ナチュラリスト協会副会長の、佐藤武彦氏に教えて戴いて、岩峠寺の立山道標地藏を訪ねた。

然し三回訪ねても中々判らなかつた。そこでもう一回詳しく教えて戴いて、四回目にやっと逢えて、写真に納める事が出来た。

舟型光背の右に「立山道」、左に「金沢□□加□□」と刻んである。不明の文字は、富山市山室荒屋と流杉にある、二例と同じく「金沢紙屋加蔵」であろうと思われる。

佐藤氏は平成五年七月十一日に、行方不明であった立山参詣道三十三観音の三十三番石仏を、旧ザンゲ坂で発見されている。



北陸石仏の会第十九回例会案内

「砺波の石仏探訪」

◎月 日 平成十年十月二十五日 (日) (雨天決行)

◎時 間 集合 午前九時三十分 (J R 高岡駅南口)、
午前十時 砺波駅南口

解散 午後三時三十分 (J R 高岡駅南口)

◎参加費 五〇〇〇円 (バス代、資料代、他)

◎申込み はがきで住所・氏名・電話・交通機関を記入の上、
左記まで

締切り 十月二十日

〒九三九一―一三一五 富山県砺波市太田一七七〇

尾田武雄気付 北陸石仏の会

TEL・FAX 〇七六三―三三二―二七七二

◎見学地 富山県砺波市・庄川町

○砺波郷土資料館の展示

生涯学習フェスティバル「まなびピア'98 IN となみ」

マナビサロン郷土の先人展

『千体の石仏を刻んだ明治の石工 森川栄次郎』の見学・主な

展示内容

- 一、金屋石を彫った石工たち
- 二、森川栄次郎の生涯
- 三、栄次郎の石仏
- 四、砺波地方の石仏

○金屋石の元採掘場所

○中筋往來の石仏 美しい観音石仏が点在している。

○砺波市太田真言宗万福寺の石仏 森川栄次郎の石仏など

北陸石仏の会第十八回例会・永平寺町の石仏探訪出席者

◇富山県

大野猪策 平井一雄 前田英雄 林 貞子 小竹一夫

南 金三 明 桂子 河合信子 中嶋照子 佐々木春子

深山節代 京田千鳥 柳沢栄司 尾田武雄 島倉千春

柳瀬雅子 前田幸江 磯上長五郎 平野重二

◇石川県

上田信子 毛利直枝 山田玉枝 滝本靖士

◇福井県

大久保まさ子 辻角紀子 北村市朗

◇新潟県

吉川 繁 吉川 ハナ

ご案内

・会員の齊藤善夫さんが『富山・石川 梵鐘考』を発売されました。ご希望の方は北陸石仏の会事務局尾田武雄までご連絡下さい。